

国際サシバサミット 2025 in 奄美大島宇検村 参加報告書

「奄美サシバ国際サミットをふりかえって！」

ASCA 代表 桂 良太郎

いまこの文章はスリランカでの国際ソーシャルワーカー会議の合間をねって書いています。このスリランカでの国際 SW 会議のテーマが、「環境とソーシャルワークの未来—地球温化問題からー」で、外国からの旧友たちが、どうして、あなたは、奄美の渡り鳥と SW の関係が大事なのと質問してきました。

人間は、国というものをつくり、パスポートや入国管理をクリアしないかぎり、行き来きできないのに、なんと「たろうの畑」のあった生駒の里山で、うまれたサシバの幼鳥は、この奄美大島で成鳥となり、その鳥が、フィリピンやインドネシアだけでなく、一部の鳥たちは、我々が昔介護を通じた国際交流を行った、メコンデルタのディンチュン村まで飛んでいくことに感動したからです。

サシバの方が、ずっと地球村再生の「ひながた」（人が学ばねばならない存在）であることを知ったからである。もっともこの国際会議を主催した、与名さんたちの苦労が地元の子どもから高齢者まで巻き込んだ、地域福祉の実践活動や当地の介護支援の動きなどを把握するためにも、今回の訪問はすばらしい訪問でした。今まで私が体験した国際会議のなかで、このサシバの国際会議ほど、いろいろな意味で、最高の国際会議であったことを、今日からひらかれるスリランカでの国際会議と対比しながら、考えさせられています。

これからも ASCA の未来に、そして、サシバに乾杯！

最後に与名さんや酒井事務局長、参加くださった皆さんに心からお礼と感謝の念を表したいと思います。みんなのチームワークにありがとうございました。それとオランダからの青年の Ben 君にとっても思い出の日本での旅となりますように。



国際サシバサミット 2025 in 奄美大島宇検村 参加所感

NPO 法人 ASCA 事務局

社会福祉法人うねび会 理事長

酒井 宏和

この度、10月25日（土）から26日（日）にかけて鹿児島県奄美大島の宇検村で開催された「第5回 国際サシバサミット 2025 in 宇検村奄美大島」に、NPO 法人 ASCA のメンバー7名で参加いたしました。私たちの法人は、「多文化共生」と「生物多様性」の統合を通じて、福祉や地球環境全体の保全を目指しており、今回の参加は環境保護の視点から社会福祉のあり方を考える貴重な機会となりました。

サミットの主役であるサシバは、日本（繁殖地）から台湾（中継地）、そして奄美やフィリピン（越冬地）へと、国境を越えて渡りをするタカの仲間です。このサシバは、生態系の健全さを示す指標種であり、国境を越えて人と人を結び、人と自然の共生を象徴する存在であることが、過去のサミットを通じて確認されてきました。

今回、日本最大のサシバ越冬地であり、世界自然遺産の島でもある奄美大島での開催に参加し、私たちが学んだのは、環境保全が単に生物一種を守る活動に留まらないということです。

最終日に採択されたサミット宣言にもあるように、サシバの保全活動は、地域の自然資源を持続的に利用し、地域の課題解決と暮らしの向上を推進すること、そして次世代への教育や普及活動を進め、豊かな自然と文化を未来へ継承することと密接に結びついています。サシバが安心して冬を越せる豊かな自然環境を守ることが、そのまま地域住民の持続可能な暮らしを守ることに直結していました。

環境保護は、私たち人間の生活基盤そのものを守る活動であり、社会福祉の根幹であると再認識しました。また、開発や密猟といった共通の課題に対し、サミットが顔の見える国際的な交流と連携を重視してバトンをつなごうとする姿は、ASCAが目指す多文化共生と生物多様性の統合という理念と強く共鳴するものでした。自然と人間が共生する地域づくりこそが、真の社会福祉の実現であると確信いたしました。



国際サシバサミット2025 in 奄美大島宇検村 参加所感

「蘇轍が枯れている」

NPO 法人 ASCA 監事 木村 真美

我が家の中のシンボルツリーが蘇轍だったので蘇轍には愛着がある。ところが奄美大島に着いて目にする蘇轍が全て枯れている。我が家の中の蘇轍は冬季に霜にやられて葉が数枚茶色くなってしまったことはあったけれど、こんなに全部が茶色

くなるなんて。その原因が蘇轍を枯らす害虫の仕業で、その害虫を捕食する鳥が減少したことでこういった被害が出ているとのこと。今まで保たれていた自然界の絶妙なバランスがどういった訳で崩れたのか分かりませんが、大変おかしなことになっていると感じた奄美でした。

※サシバサミットには参加出来なかった為、奄美大島の感想となりました。



「サシバサミット参加について」

NPO 法人 ASCA 柴田 珠美

宇検村での国際サミットは、暖かみの溢れる素晴らしいサミットでした。

人口 1600 人の村であれほど大きな国際サミットを開催し成功させるとは、主催側や関係者、参加する人達みんなが協力しなければできない事だと本当に感動しました。

サシバを守るとは、ただ鳥の保護の話ではないのだと与名さんから習いました。

また国際サミットでも多くの事を学びました。

人と自然の共生、それ以前に人ととの共生はどうなっているのか？

令和7年11月3日

里山を破壊したり、戦争を引き起こしたり、自ら自分の巣、未来を壊すようなことをする人間とは本当に愚かな生き物だとサシバ達は思ってるのではないかと思います。

また、寒川さんご夫妻から生駒の里山の問題などもお聞きしました。

まずは身近なこと、出来ることから私もなにか少しでもお役に立ちたいと思っています。

今回、色々と学ぶ機会をくださって本当に感謝しています。

桂先生、与名さん、準備手配をしてくださった酒井さん、参加のみなさま！

どうもありがとうございました。

PS . 水間黒糖さんに市バスで行つきました。ご家族?3人で作るところも見学させてもらいました。全て手作りの貴重な幻の黒糖は本当に美味しかったです。近い将来奄美に移住をしたいです。



サシバ熱に感染中

柴田珠美

「サシバ保全活動における環境保護」

NPO 法人 ASCA 寒川 潮

「こちらにも少し寒気が入ってきてるので、上着を持ってきて下さいね～」との事前のご連絡に、長袖シャツを着て、更にウインドブレーカーを荷物に詰めていざ伊丹空港へ。途中、気流に揉まれるわ、激しい着陸に恐怖するわ、で料金以上に楽しませてもらって、奄美大島に無事到着。搭乗橋に出るやいなや真夏を思わせる空気に包まれ、長袖の袖をまくる。この旅の主な目的は国際サシバサミットに参加することで、今力を注いでいるサシバの営巣場所かもしれない生駒北部の自然保護を前進させたいという思い、というか、メンバ一の期待を背負っての来島だ。

このサミットは、猛禽類の「サシバ」の学術研究から市民による保全活動まで、世界各国の繁殖地・渡の途中の中継地・越冬地での取り組みの共有の場である。サシバ保護のために古くからの狩猟・食文化を行政の主導で改めたという報告や、生息地の環境保全のために自然農法の実施を罰則付き条例で推進している報告もあったが、海外で活動に参加している方々の姿に日本との相違を感じた。まず、多数の必ずしも鳥類に詳しくない一般市民を活動に巻き込んで、お祭りのように楽しく活動が出来ていること、また、多くの団体が情報を共有して協働できていることだった。更に、現在国内でも問題となっている大型の再生可能エネルギー生成施設と鳥類の保護活動の両立の問題に対しても、二者択一ではなく共存も道を模索していることにも感銘を受けた。もちろん、多くの活動団体と知り合うこともでき、今回の参加は今後の自身の活動のためにも、予想以上に収穫の多い機会となつた。

空港で、また宇検村でうけた皆さんからの心温まる歓待をはじめ、運良く参加できた三太郎祭りでの年配の皆さんとの会話に、島の気候と同じような暖かで穏やかな気持ちをおぼえ、本土の喧騒の異常さを強く思った。大空に悠々と多くのサシバが舞う豊かな島の自然がそうさせるのか、とても羨ましく感じた滞在最後の夜だった。



「サシバ国際サミットに参加して」

NPO 法人 ASCA 寒川 麻利子

奄美大島、緑豊かで人々が温かく、なんと素敵なところだったのでしょう。最初に訪れた場所は東の端、奄美市にある空港近くの「奄美パーク」と「田中一村記念美術館」。湿度が高く雨が降っていましたが、初めて奄美大島を訪れたら行くべき場所という所で、島の文化とそこで絵を描き自然の美しさを伝えた方を知ることができました。

この後、「大島紬村」へ行き、伝統工芸である大島紬の製造工程の見学をしました。

お昼は島でよく食べられている「けいはん」というお茶漬けに似た食事をとり買いました。

黒砂糖の加工品などを購入しました。

ホテルのある名瀬市へは夕方到着、夜はこの旅の主要目的である「国際サシバサミット 2025 in 宇検村奄美大島」の歓迎会に参加し地元の料理を囲みにぎやかな夕食を楽しみました。

翌朝は島の西の端にあるサミット開催地、宇検村に向かいました。この日も雨模様でしたが多くの方が会場である体育館に集まりました。

私のこの旅の主目的はサシバという私の住む生駒市北部にも飛来する鳥を守る活動をしている方たちと出会い、生駒の里山が開発の危機にあり、サシバの生息も危ぶまれている実態を多くの方々に知って力になっていただくことでしたが、それをこの日と翌日の二日間でチラシの配布や交流でお伝えし、また国際的にも開発ではなく自然を増やすこと「ネイチャーポジティブ」として主流になつ

ていることを知り今後の活動にとって意味のある時間を持つことができました。

この日の夜は会場の隣の「元気の館」での晩餐会に参加し、おいしい食事と語らい、踊りや歌で盛り上がり主催者の方々、宇検村の方々の熱意と温かさを感じました。

サミットの2日目は前半は参加せず、一緒に旅をしたオランダの青年を連れて「たえん浜」とアランガチの滝へ、その後会場に戻りサミットの締めくくりの重要な話をみんなで聞きました。

午後はまた空港まで向かい昼食をとり、東の端にある「土盛（ともり）海岸」、夕方は奄美市の「三太郎まつり」へ行き夜はホテル近くで優しい女性のすし職人が作る地元の海鮮料理を味わい翌朝は岐路へ着きました。

素晴らしい旅になりました。桂良太郎さんや与名正三さん他、旅でご一緒させていただいた皆さんどうもありがとうございました。

2025年11月2日

寒川 麻利子



「サシバ国際サミットに参加して」

NPO 法人 ASCA Sharma Adarsh

サシバ: The Journey of the Grey-faced Buzzard Across Amami

A heartfelt reflection on how the grey-faced buzzard (サシバ) connects skies, people, and cultures through its journey across Amami Island. The international Summit on Grey-Faced Buzzard (Sahiba Summit) in Uken village gathered government officials and researchers devoted to Sashiba conservation and exchange.

Amami Island had long been on my bucket list, and my wish finally came true, thanks to the Grey-faced Buzzard (サシバ). I have always believed in connecting people across cultures, but through this visit, I learned that even birds like *Sashiba* connect the sky and people remind us how deeply all lives are intertwined. Participants from Korea, Taiwan, and the Philippines also joined, showing how the *Sashiba* links countries through its migration.

It was 2025 International conference on the *Sashiba* in Uken village, Amami. attended by government officials, researchers from Japan, Korea, Taiwan and the Philippines dedicated to its study and conservation. Their shared passion showed how people how the *Sashiba* has become the bridge not only between lands, but also among people who care for the same sky.

Amami's rich nature, museums and archaeological sites revealed how people have long lived in harmony with the environment. This visit reaffirmed my belief that while I strive to connect with people, nature has been doing the same quietly across skies, land and time.

I am deeply grateful to my long-time friend Prof. Ryo Katsura who connected me to Mr. Yona, a researcher and a splendid photographer who has loved *Sashiba* since his school days. I would like to express my heartfelt thanks to 与名先生 whose kind invitation made my visit possible. It was because of him that I had this wonderful opportunity to learn about *Sashiba* and experience the warmth of Amami. My sincere thanks also to Prof. Ryo Katura and to all the amazing people in our group and the people I met by chance on this memorable journey.

Finally, let's stay connected with our broad smiles through people, nature, and the sky we share.

＜日本語訳＞

奄美を渡るサシバの旅路

サシバが奄美大島を旅することで、いかに空、人々、そして文化を結びつけていくか。その旅路への心からの思いを綴ります。宇検村で開催されたサシバに関する国際サミット（サシバサミット）には、サシバの保全と交流に熱心な政府関係者や研究者が集いました。

奄美大島は長年の私の「行きたい場所リスト」に入っています、今回サシバのおかげでついにその願いが叶いました。私は以前から、文化を超えて人々を結びつけることの重要性を信じていましたが、今回の訪問を通じて、サシバのような鳥で

さえ空と人々をつなぎ、すべての命がどれほど深く絡み合っているかを教えてくれるのだと学びました。韓国、台湾、フィリピンからの参加者も加わり、サシバがその渡りを通じて国々を結びつけていることを示しました。

それは奄美・宇検村で開催された「2025年サシバ国際会議」でした。日本、韓国、台湾、フィリピンの政府関係者や研究者が、サシバの研究と保全のために集まりました。彼らの共有する情熱は、サシバが単なる「土地と土地の間」だけでなく、「同じ空を大切に思う人々」の間をも結ぶ架け橋となっていることを示しました。

奄美の豊かな自然、博物館、遺跡は、人々がいかに長い間環境と調和して暮らしてきたかを明らかにしました。今回の訪問で、私は「私が人との繋がりを築こうと努めている一方で、自然は空、土地、そして時間を超えて静かに同じことをしてくれていた」という信念を改めて強くしました。

長年の友人である桂 良太郎教授には深く感謝しています。彼が、学生時代からサシバを愛し続ける研究者であり素晴らしい写真家である与名氏と私を結びつけてくれました。この訪問を可能にしてくださった与名先生の温かいご招待に、心から感謝の意を表します。彼のおかげで、サシバについて学び、奄美の温かさに触れるという素晴らしい機会を得ることができました。また、桂 良教授、そして私たちのグループの素晴らしい仲間たち、この思い出深い旅で偶然出会ったすべての人々にも、心から感謝申し上げます。

最後に、私たちが共有する人、自然、そして空を通じて、これからも皆さんと広い笑顔で繋がり続けましょう。

